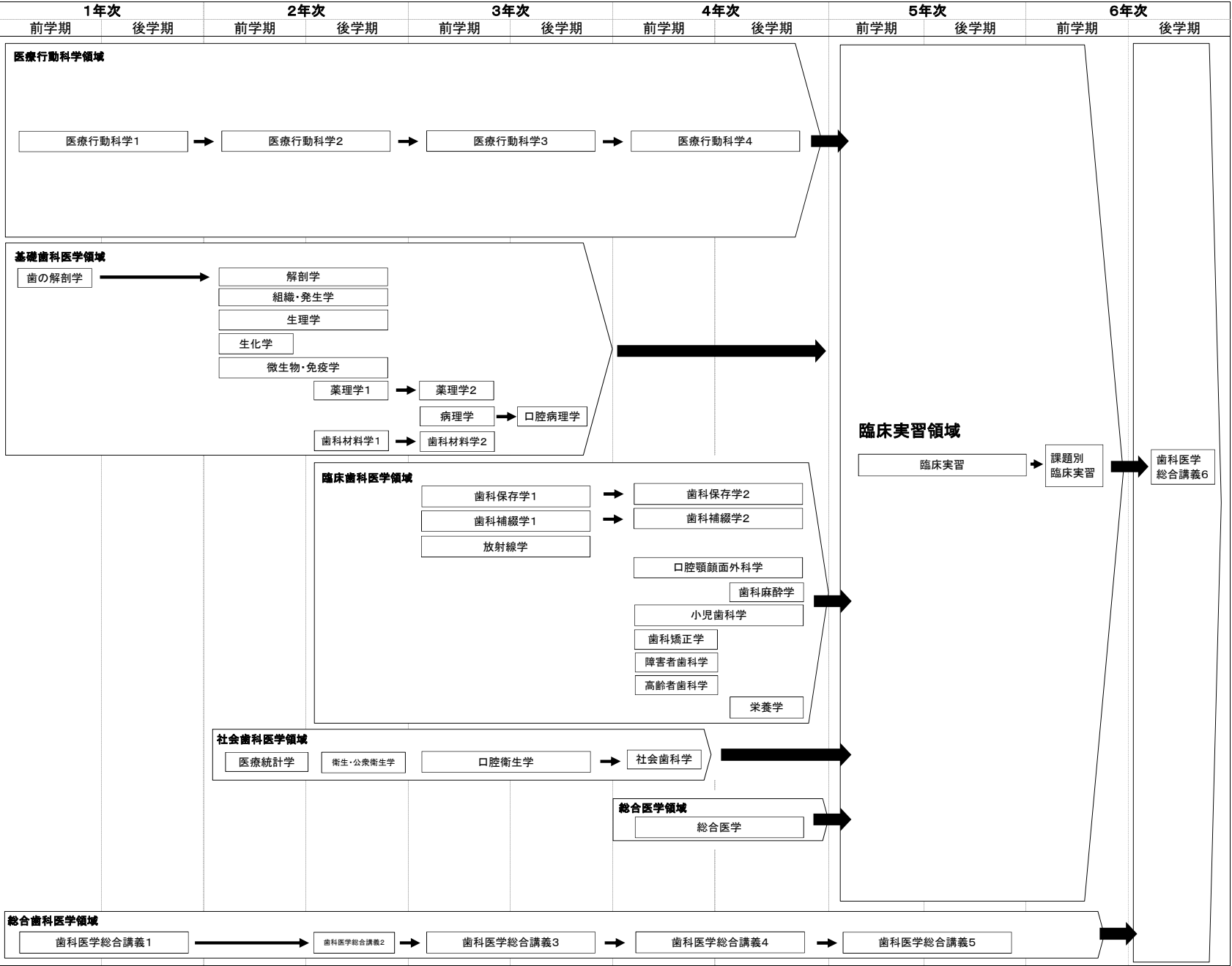
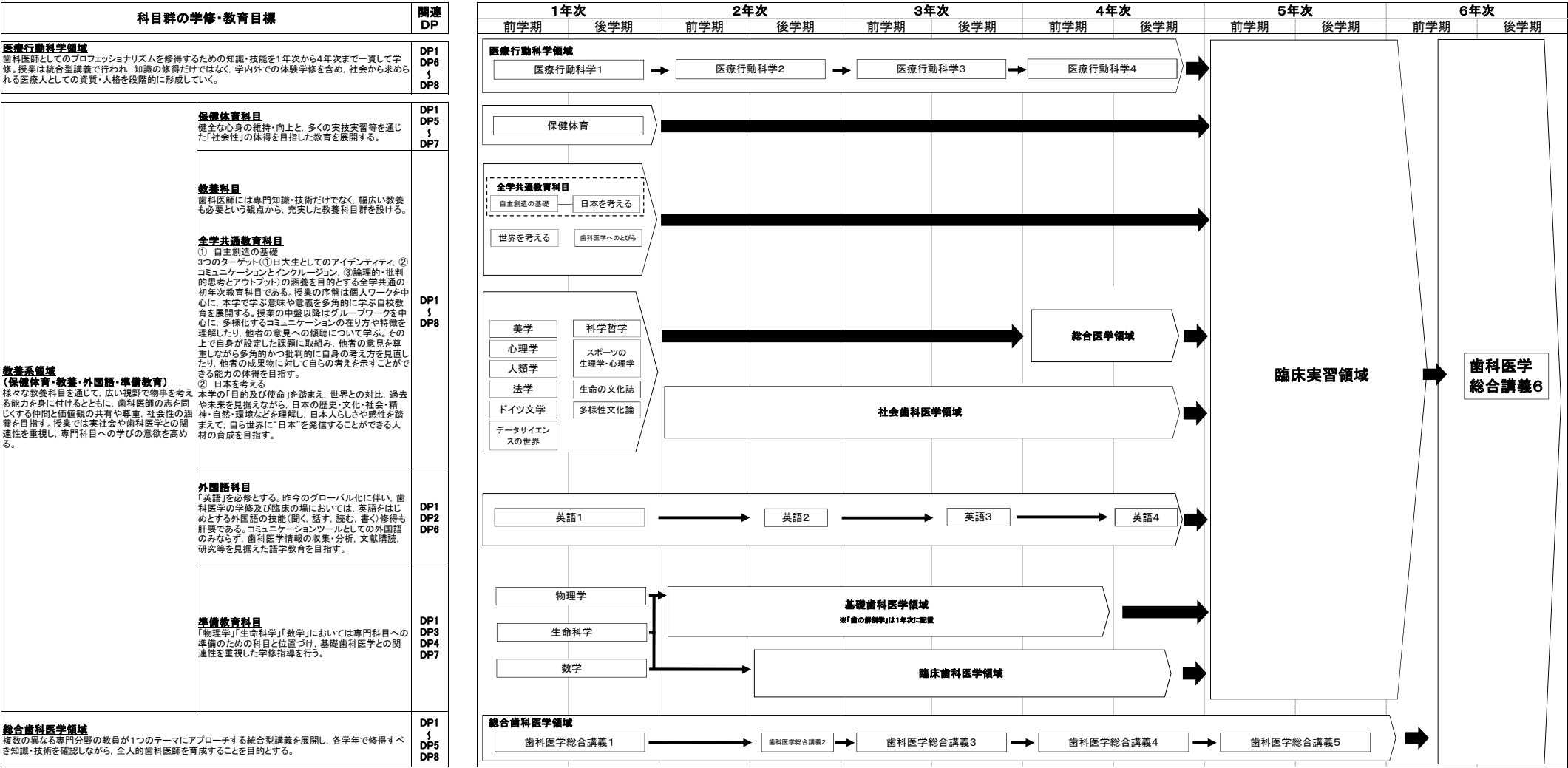


令和7年度施行カリキュラム 松戸歯学部 履修系統図（授業科目関連図:専門科目）

科目群の学修・教育目標	関連 DP
医療行動科学領域 歯科医師としてのプロフェッショナルリズムを修得するための知識・技能を1年次から4年次まで一貫して学修する。 医療行動科学1・2 1・2年次は、授業は統合型講義で行われ、知識の修得だけではなく、学内外での体験学修を含め、社会から求められる医療人としての資質・人格を段階的に形成していく。 医療行動科学3 [患者－医療者関係学／医療人間学] 3年次は、患者と医療者のあるべき関係について深く考え、付属病院における「患者付添実習」を通して自らが取るべき行動指針について学修する。 医療行動科学4 [医療面接・歯科臨床診断学／医療コミュニケーション学] 4年次は、医療面接を通して、医療情報を収集し、最適な医療を行うために必要な診断までのプロセスや患者と良好な信頼関係を築くための医療コミュニケーションについて学修する。	DP1 DP6 DP8
基礎歯科医学領域 歯科医師になるためには、人体の構造とその詳細、人体の各部分の機能を十分に理解する必要がある。さらに、病気の原因や治療に用いる薬の作用なども十分に理解しておく必要がある。このような医学にとっての基本的な知識は基礎医学とよばれており、専門的には解剖学、組織・発生学、生理学、生化学、薬理学、微生物・免疫学、病理学などの分野に分かれている。また歯科医学においては生体との関わりの中で材料学が重要な役割を果たしている。そこでこれらの学習を系統的に学修し、生体の構造や機能について幅広い医学知識や実際の歯科治療の知識・技術修得へ向けての基礎知識を身に付ける。	DP1 DP3 DP4 DP7
臨床歯科医学領域・社会歯科医学領域 から全体についての医学的知識をもとに、歯科治療はどうあるべきかという理論と具体的な治療法について学びを深める。歯の硬組織や周辺組織に関する疾患や、その欠損と障害、口腔顎顔面領域の軟組織や硬組織に発生する疾患や障害、発育、成長過程に発生する疾患や障害、また高齢者に特有の疾患や障害とその治療法を学び、多様な歯科医療対応を修得する。また歯科医療の社会における役割と公衆衛生への関与を学び、科学論文の理解に必要な医療統計学の基礎を学修する。さらに講義と実習を組み合わせることで、臨床実習にあたっての、医学・歯科医学の知識と歯科医療の実践との双方を併せ持つ能力を身に付ける。	DP1 DP3 DP4 DP7
総合医学領域 臨床実習前に、内科学・外科学などを主体にした医学分野を横断的かつ総合的に学び、「オーラルサイエンス(口腔科学)」を実践するための知識・技術を統合的講義にて身につける。	DP1 DP3 DP5
臨床実習領域 担当医の指導を受けながら、1年間をかけて医療現場の実務を修得します。患者さんと接することで、技術だけでなく、歯科医師としての態度、職業意識を身につける。	DP1 DP8
総合歯科医学領域 複数の異なる専門分野の教員が1つのテーマにアプローチする統合型講義を展開し、各学年で修得すべき知識・技術を確認しながら、全人的歯科医師を育成することを目的とする。	DP1 DP8

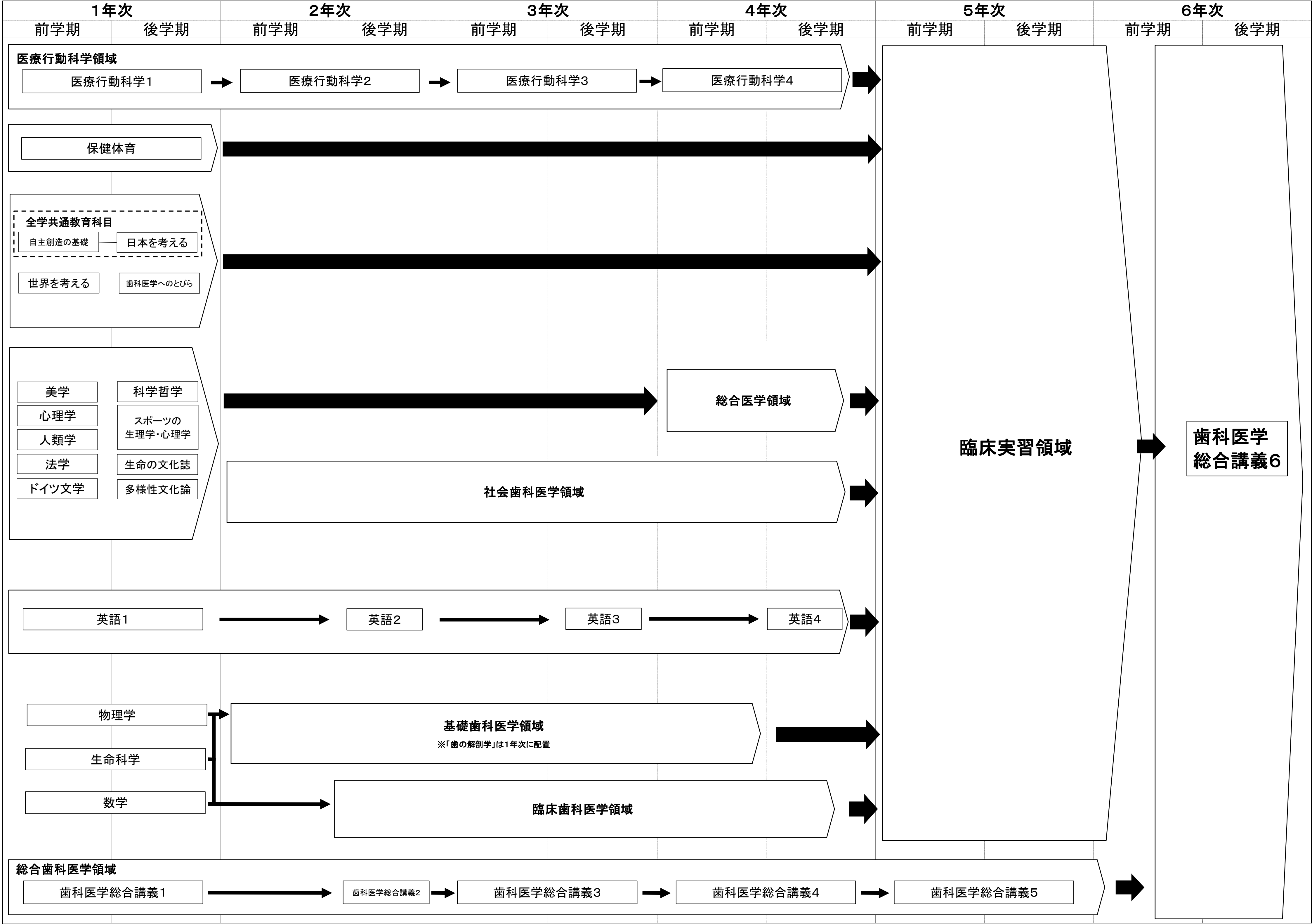


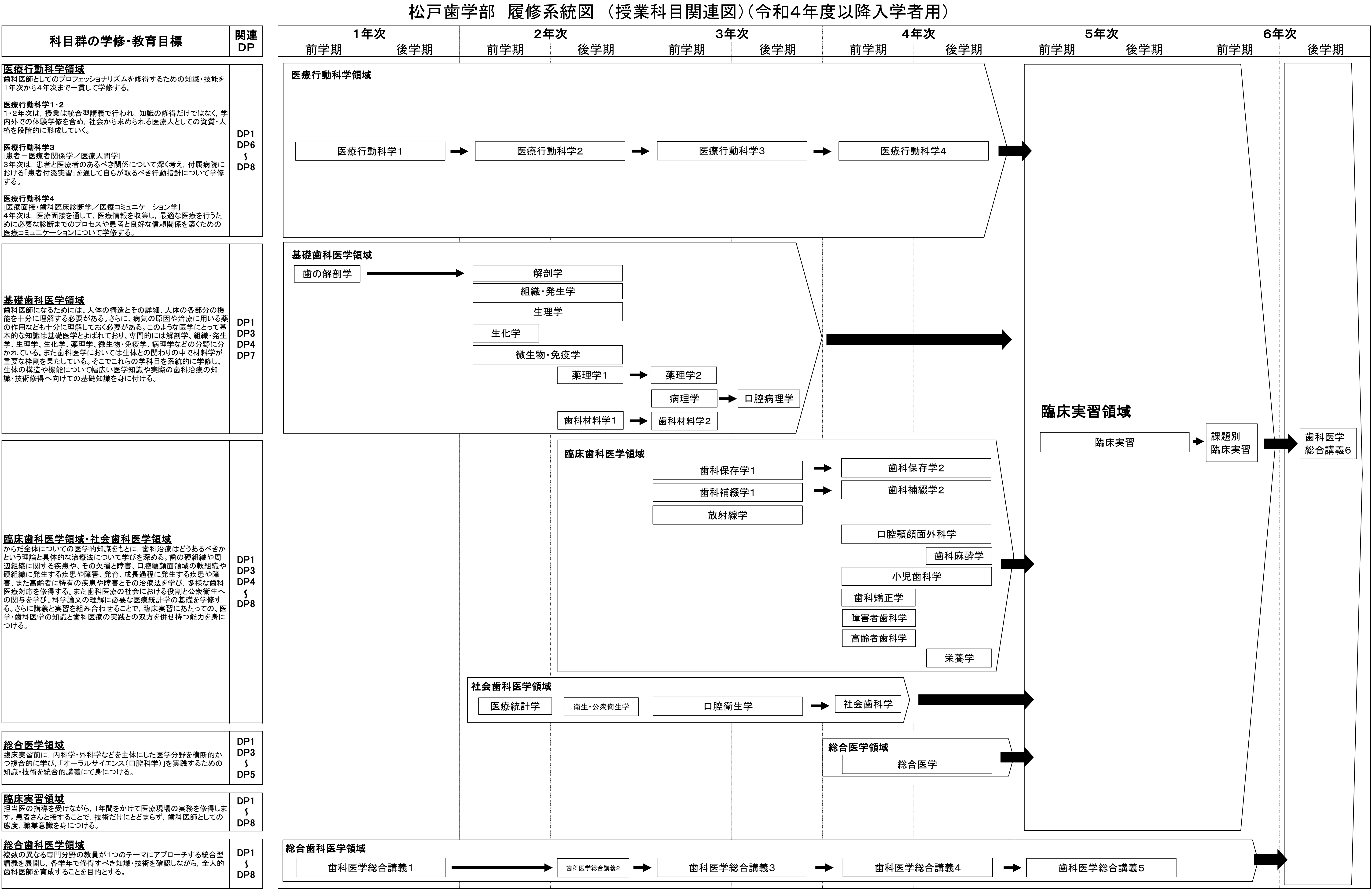
令和7年度施行カリキュラム 松戸歯学部 履修系統図（授業科目関連図:教養科目ほか）



松戸歯学部 履修系統図（授業科目関連図）(令和4年度以降入学者用)

科目群の学修・教育目標		関連 DP
医療行動科学領域 歯科医師としてのプロフェッショナリズムを修得するための知識・技能を1年次から4年次まで一貫して学修。授業は統合型講義で行われ、知識の修得だけでなく、学内外での体験学修を含め、社会から求められる医療人としての資質・人格を段階的に形成していく。		DP1 DP6 DP8
教養系領域 （保健体育・教養・外国語・準備教育） 様々な教養科目を通じて、広い視野で物事を考える能力を身に付けるとともに、歯科医師の志を同じくする仲間と価値観の共有や尊重、社会性の涵養を目指す。授業では実社会や歯科医学との関連性を重視し、専門科目への学びの意欲を高める。	保健体育科目 健全な心身の維持・向上と、多くの実技実習等を通じた「社会性」の体得を目指した教育を展開する。	DP1 DP5 DP7
	教養科目 歯科医師には専門知識・技術だけでなく、幅広い教養も必要という観点から、充実した教養科目群を設ける。	DP1 DP8
	全学共通教育科目 ① 自主創造の基礎 3つのターゲット(①日大生としてのアイデンティティ、②コミュニケーションとインクルージョン、③論理的・批判的思考とアウトプット)の涵養を目的とする全学共通の初年次教育科目である。授業の序盤は個人ワークを中心に、本学で学ぶ意味や意義を多角的に学ぶ自校教育を展開する。授業の中盤以降はグループワークを中心に、多様化するコミュニケーションの在り方や特徴を理解したり、他者の意見への傾聴について学ぶ。その上で自身が設定した課題に取組み、他者の意見を尊重しながら多角的かつ批判的に自身の考え方を見直したり、他者の成果物に対して自らの考えを示すことができる能力の体得を目指す。 ② 日本を考える 本学の「目的及び使命」を踏まえ、世界との対比、過去や未来を見据えながら、日本の歴史・文化・社会・精神・自然・環境などを理解し、日本人らしさや感性を踏まえて、自ら世界に“日本”を発信することができる人材の育成を目指す。	
	外国語科目 「英語」を必修とする。昨今のグローバル化に伴い、歯科医学の学修及び臨床の場においては、英語をはじめとする外国語の技能(聞く、話す、読む、書く)修得も肝要である。コミュニケーションツールとしての外国語のみならず、歯科医学情報の収集・分析、文献購読、研究等を見据えた語学教育を目指す。	
	準備教育科目 「物理学」「生命科学」「数学」においては専門科目への準備のための科目と位置づけ、基礎歯科医学との関連性を重視した学修指導を行う。	DP1 DP3 DP4 DP7
総合歯科医学領域 複数の異なる専門分野の教員が1つのテーマにアプローチする統合型講義を展開し、各学年で修得すべき知識・技術を確認しながら、全人的歯科医師を育成することを目的とする。		DP1 DP5 DP8





科目群の学修・教育目標		関連 DP
医療行動科学領域 歯科医師としてのプロフェッショナリズムを修得するための知識・技能を1年次から4年次まで一貫して学修。授業は統合型講義で行われ、知識の修得だけでなく、学内外での体験学修を含め、社会から求められる医療人としての資質・人格を段階的に形成していく。		DP1 DP6 DP8
教養系領域 (保健体育・教養・外国語・準備教育) 保健体育科目では、歯科医師として心と身体の健康を管理できる能力を育成し、身体機能の維持・増進に加え、社会性の体得と自律した確かな人間性を高める。歯科医師には専門知識・技術だけでなく、幅広い教養も必要という観点から、充実した教養科目群を設ける。日本大学全学共通教育科目「自主創造の基礎1」、「自主創造の基礎2」、「日本を考える」では、大学での学びやこれからの生き方において必要な日本大学教育憲章に示す基礎的素養を学生個々が身に付けることを主眼とする。また、実社会との関連から教養を学ぶ意義への理解や自身の専門分野を学ぶ意識を高め、以後受講する科目等の成果の充実に寄与するものとする。準備教育科目の「物理学」「生命科学」「数学」においては、基礎歯科医学との関連性を重視した学修指導を行う。	保健体育科目 健全な心身の維持・向上と、多くの実技実習等を通じた「社会性」の体得を目指した教育を展開する。	DP1 DP5 DP7
	教養科目 歯科医師には専門知識・技術だけでなく、幅広い教養も必要という観点から、充実した教養科目群を設ける。 全学共通教育科目【日本大学養育憲章コア科目】 ① 初年次教育科目「自主創造の基礎1・2」 日本大学教育憲章に示す「自ら考える」、「自ら学ぶ」、「自ら道をひらく」自主創造型パーソンの養成を目指した全学共通の初年次教育科目である。本学の理念、歴史を理解し、大学の学びに必要な能動的な学修方法の体得と学修習慣の定着を促進する。 ② 教養基盤科目「日本を考える」 本学の「目的及び使命」を踏まえ、世界との対比、過去や未来を見据えながら、日本の歴史・文化・社会・精神・自然・環境などを理解し、日本人らしさや感性を踏まえて、自ら世界に“日本”を発信することができる人材の育成を目指す。	DP1 DP8
	外国語科目 「英語」を必修とする。昨今のグローバル化に伴い、歯科医学の学修及び臨床の場においては、英語をはじめとする外国語の技能(聞く、話す、読む、書く)修得も肝要である。コミュニケーションツールとしての外国語のみならず、歯科医学情報の収集・分析、文献購読、研究等を見据えた語学教育を目指す。	DP1 DP2 DP6
	準備教育科目 「物理学」「生命科学」「数学」においては専門科目への準備のための科目と位置づけ、基礎歯科医学との関連性を重視した学修指導を行う。	DP1 DP3 DP4 DP7
総合歯科医学領域 複数の異なる専門分野の教員が1つのテーマにアプローチする統合型講義を展開し、各学年で修得すべき知識・技術を確認しながら、全人的歯科医師を育成することを目的とする。		DP1 DP5 DP8

松戸歯学部 履修系統図（授業科目関連図）(令和2年度, 令和3年度入学者用)

